

PRAEVIDENTIA DAILY (11月27日)

昨日までの世界：豪ドル安が続く中、ドル/円は息切れ感

昨日は、材料難の中、豪ドルの下落トレンドが継続し対米ドルで一時 0.91 ドル割れとなった一方、ユーロやポンドは反発しユーロ/ドルは利下げ後の戻り高値（11月20日の1.3579ドル）近辺へ上昇、ポンド/ドルは1.62ドル台を回復し直近高値（10月1日の1.6260ドル）を目指す展開となった。ユーロに関してはECB高官からマイナス金利に関する発言が相次いでおり、昨日も Coeure 理事が発言したが、マイナス金利は可能だが数ある手段の一つに過ぎないとするなどどっちつかずの内容が多く、追加利下げ期待を強めるものとはなっていない。結局、マイナス金利を含めたECBの追加緩和には、ユーロ圏景況感の改善一服・悪化とHICPの更なる低下が必要で、今後のデータ次第だろう。ポンドを巡っては昨日 Carney・BoE 総裁をはじめ主要メンバーが議会証言を行い、FOMCと同様に失業率がBoEの基準である7.0%に下げても利下げを急がないとし、特に量的緩和縮小に関する議論もなく、英長期債利回りは低下基調が続いたものの、同時に住宅市場には勢いがある、とされるなど英景気に関する強気な発言もあり、為替市場ではハト派的とは捉えられなかったようだ。

ドル/円は、前日に102円乗せトライに失敗した後、米長期債利回りの小幅低下も頭を抑えるかたちとなり、101円台前半へじり安、先週末の水準に戻ったかたちとなった。米経済指標では、住宅建設許可件数が9月に97.4万件、10月に103.4万件と市場予想を上回り持ち直し基調が鮮明化したことは最近回復鈍化傾向がみられていた米住宅市場にとって朗報といえ、S&P ケースシラー住宅価格指数も前年比+13.3%と予想以上に伸び率が加速したが、消費者信頼感がやはりミシガン大分と整合的なかたちで70.4と前月および市場予想を下回ったため、全体としてまちまちとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.4	+0.02	+0.01	-0.01	+0.00	-0.02	-0.03	+0.0	-0.7	-0.7	+0.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.4	-0.02	-0.01	+0.01	-0.01	-0.03	-0.02	-0.3	+0.0	+0.1	+0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.4	-0.01	-0.00	+0.01	-0.02	-0.04	-0.02	-0.9	+0.0		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.4	-0.04	-0.03	+0.01	-0.02	-0.04	-0.02	+0.0	-0.1	-0.1	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	-0.01	+0.00	+0.01	+0.02	-0.00	-0.02	+0.0	-0.1	-0.1	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.0	+0.02	+0.01	-0.01	+0.01	-0.02	-0.03	+0.0	-0.7	-0.1	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

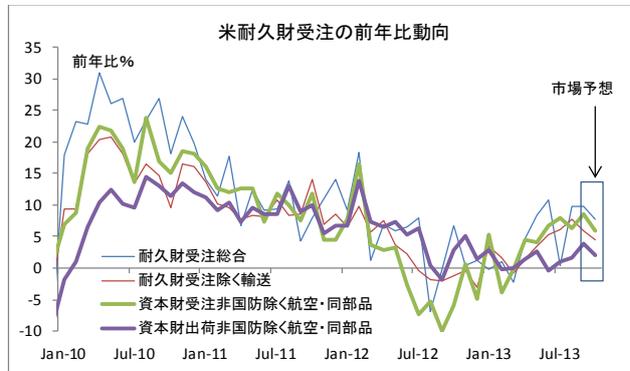
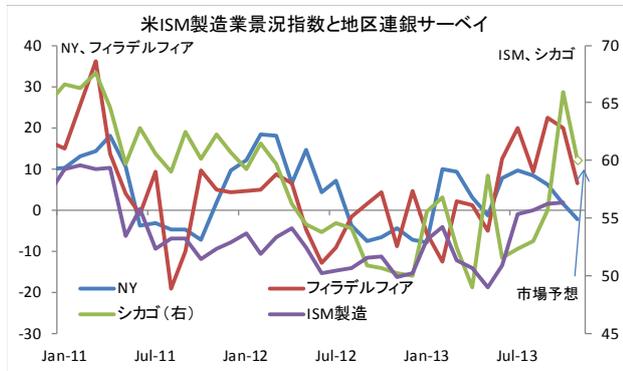
きょうの高慢な偏見：ドル/円の調整リスクに警戒

本日は明日の米感謝祭休場を前に相場材料は少なく、①白井日銀審議委員発言（10：30、ややハト派）、②米新規失業保険申請件数（22：30、前週32.3万件、市場予想33.0万件）、③米10月耐久財受注（22：30、除く輸送用機器：前月-0.2%、市場予想+0.5%、資本財受注（非国防・除く航空機）：前月-1.3%、市場予想+0.9%、資本財出荷（非国防・除く航空機）：前月、市場予想ともに-0.2%、前月比）、④米11月シカゴ製造業PMI（23：45、前月65.9、市場予想60.0）、⑤米11月ミシガン大消費者信頼感指数改定値（前月73.2、速報72.0、市場予想73.1）、などが予定されている。

本日も方向感を定める決定打があるか分からない中、ドル/円はやや上昇モメンタムが弱まっており、感謝祭休場を控えて悪材料が出た際のドル調整リスクが高まっている。中でもシカゴ製造業PMIは60.0と前月から悪化予想となっており、既に発表されたNY連銀分、フィラデルフィア連銀分と整合的だが、シカゴ分は10月分の改善（65.9）が突発的に大きかったため、同程度の反落があると9月の水準である55.7近くへの反落となり、ドル/円のポジション調整の契機となるリスクがある（下図を参照）。なお、耐久財受注では設備投資の先行指標とされる資本財受注（非国防・除く航空機）が大きく反発する予想となっている一方、GDP算出に用いられる資本財出荷（非国防・除く航空機）は前月比小幅マイナスが予想されているなどまちまちで、かつ通常前月比計数は非常に振れが大きいいため、米景気のトレンドをつかむ上では注目度はあまり高くないだろう。な

お、前年比換算では全般的にやや伸び率鈍化が予想されている（下図を参照）。

円関連では白井日銀審議委員の発言が予定されている。白井委員はかねてより日銀の強気のCPI見通しに下振れリスクがあると繰り返し返してきており、昨日も10月31日開催分の議事要旨で同様の発言をしていたようだ。今回、具体的な追加緩和の必要性と具体策について言及があればある程度サプライズとなり円売りとなるが、そこまで踏み込む可能性は現時点では低く、かつ白井委員が現時点で多数派になるとはみられず、円相場への影響はあまり大きくないだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社 関東財務局長（金商）第 2733 号